



# くになちバリアフリー映画上映会実行委員会

一年齢やしょうがいに関係なく、国立で映画を楽しむ場を共有したい

## くになちバリアフリー映画上映会実行委員会の活動の起源について教えてください。

平成18年4月に、夜間中学校をとりあげた日本語字幕と音声ガイド付き邦画ドキュメンタリー「こんばんは」の自主上映会開催に向けて結成されました。くになち音訳グループ、くになち点字の会、くになち市聴覚障害者協会・手話サークル連絡会の3団体で活動しているボランティアが参加し、国立市社会福祉協議会の協力を得て、9月に福祉会館のホールで盛況のなか開催しました。当初、実行委員会は、3団体から15名程度で活動していましたが、回を重ねて、現在は個人参加での8名です。

## 一会の具体的な活動内容について教えてください。

毎年開催する上映会に向けて作品を選定します。音声ガイドがついていない作品には、台本を起こし、音声ガイドのたたき台を作ります。次に完成に向けてよりの確かな言葉を選びながら内容を検討しています。平成20年、国立市社会福祉協議会主催「筆子・その愛」上映会で、初めてオリジナル音声ガイドづくりに挑戦しました。以後、16作品を製作。ライブでの音声ガイドを皆さんに体験して頂いています。近年は、CDで映画を観る(聴く)シネマデイズへの台本提供、ガイドの録音、編集等の協力もしています。～みんな映画が大好き！～を合言葉に、活動を継続しています。

※シネマデイズ(1枚のCDに映画本編の主音声と登場人物の動きや場面、背景等の視覚情報を言葉で説明した音声ガイドをともに録音したもの)



▲ライブガイドの様子

## 一活動をしていて嬉しかったことはありますか。

上映後のアンケートには、毎回たくさんのご意見、感想を書いていただき、大きな力となり、また次回への改善に繋げています。昨年の「第三の男」日本語吹き替え版上映には、日本点字図書館からの情報で、厚木市、大田区など他市区からも盲導犬とともに参加があり、映画の力に驚かされました。

## 一今後の課題はありますか。

映画の選定の段階で、名画の上映権が切れていたり、作品によっては自主上映の許諾が取れないケースや上映料が高いといった問題があります。

上映料は国立市社会福祉協議会に協力していただいています。

## 一活動の中で印象的な出来事などがございましたら教えてください。

昨年上映の「ちづる」は、大学生の兄が自閉症の妹と向き合い、卒業制作としてカメラを向けたドキュメンタリーでした。音声ガイド付き上映は初めてのことでしたが、監督ならではのご指摘で監修していただきました。上映後の講演では、会場の皆さんとより映画を身近に引き寄せて、理解を深めることができました。

東日本大震災がテーマになっている「先祖になる」を2015年に上映し、舞台となった陸前高田市を訪れました。映画では900年続く恒例の「けんか七夕」を復活する場面もあり、8月7日の当日に訪れました。幸運にも主人公の佐藤直志さんにお会いできて、映画の中の家や出演者、お祭りを体験してきました。復興はまだ遠い道のりの中、地元の方々の温かさや明るさに胸が熱くなりました。



▲佐藤さんを囲んで



▲けんか七夕を訪れた様子



▲赤崎監督と上映後に

## くになちバリアフリー映画上映会実行委員会

平成18年4月結成

平成20年～現在 くになちオリジナル音声ガイドを作成し、上映会を実施

作成したオリジナル音声ガイドをシネマデイズ化に協力